

別府市就学前の子どもに関する教育等協議会

第5回議事録概要版

- 日 時 令和3年6月9日（水）15時～16時15分
- 場 所 別府市上下水道局 3階大会議室
- 出席委員 山岸委員 仲嶺委員 伊藤委員 姫野委員 宮崎委員 園委員 薬丸委員
- 事務局 柏木教育部長 田辺市民福祉部長 稲尾教育次長 北村学校教育課長
奥教育政策課長 宇都宮子育て支援課長 松丸学校教育課参事 吉田教育政策課参事
内田子育て支援課参事 田原子育て支援課補佐 佐藤子育て支援課補佐
釘宮教育政策課補佐、石崎
- 傍聴者 3名
- 報道関係 2社
- 次第
 - 1 開会
 - 2 議事
 - (1) 別府市就学前の子どもに関する教育等協議会報告書最終案について
 - (2) 教育長報告について
 - 3 教育長報告（15時45分）
 - 4 閉会

◆ 議事

(1) 別府市就学前の子どもに関する教育等協議会報告書最終案について

<事務局から説明>

○協議

委員長：これまでの意見をまとめて、最終案とした。委員には事前に送付し、検討していただいた。本日欠席の委員からも、この内容でよいと返事をもらっている。報告書最終案について、これでよいか。

委員：12ページの「まとめ」の文章の中で「市立幼稚園における複数年保育の導入は十分に考えられる」とある。全園を複数年保育として考えているわけではないということを記載する方向で、例えば「一部複数年保育の導入」としていただきたい。また、認定こども園の部分で、「メリットが理解されていない可能性があり」とあるが、「メリットが理解されていないことが推察され」という文言の方がよい。

委員長：事務局としてこのような文言の修正があつてよいか。修正する、しないを決めた後は、一旦教育長へ報告し、後での文言の訂正としてよいのではないか。文言を修正することについてはどうか。

事務局：委員の言われたとおり、そちらの方が適切である。訂正をするが、委員長の言われたとおり、このまま教育長に報告したい。事前に教育長には、このような意見があり、こう訂正すると説明した上で進めさせていただきたい。

委員長：教育長への報告については、この文言のとおり報告しますが、事前に2点については、文言の修正があると説明します。よろしいでしょうか。

<異議なし>

委員長：最後に、皆様方から会に参加した感想を、一言ずつお願いします。

委員：真剣に別府市のことを考えないといけないと感じた。私立幼稚園連合会の園長会でも話をしている。『幼稚園』という学びの場所の確保をきちんと確立して、保育所の方たちと一緒に話す場ができれば、もっと別府市も子どものことを考えながら進めていけるのではと、改めて思った。

委員：とても勉強になった。ここに来なければ、わからないことだらけだったが、色々知ることができた。公立幼稚園の保護者の代表として意見を言えたことがありがたかった。

委員：先生たちの中で、保護者である私たちの意見に耳を傾けてもらえた。別府市はこのような会議があり、子どものことを考えてもらえている。他市では「何人になったから廃園です」という話もあるので、そうではなくて、きちんと会議を開いてくれたのはよかった。

委員：現在、幼児教育が注目されていて、嬉しくもあり、責任も感じる。保護者や他校種から求められていることを感じながら、これからどのようにしていくべきなのか、と考えさせられた。今後、具体的な基本方針等を策定する際には、現場の声を聞き進めてほしい。

委員：別府市全体で幼児教育を充実させようという一体感が生まれた会議だった。この協議会が終わっても、この会議の遺産を引き継ぎ、別府市全体で幼児教育を考えていく文化が続いていくとよい。

委員：保護者、幼稚園、認定こども園、保育所、小学校のそれぞれの立場の話を聞いたのは宝物である。子どもを中心に据えて話し合いができた会議だった。自分は幼稚園の先生を養成する立場である。現場に出て、各自が大きく成長してほしい、よい先生になってほしいと願って送り出している。公立・私立を問わず、それぞれの現場でよい先生になる、そういう別府市であってほしいと思って参加させてもらった。

委員長：皆さんからたくさん意見をいただいて、まとめる段階でも皆さんの意見が参考になった。保護者が課題を一番自覚している方である。その方の話も聞くことができた。また、幼稚園、小学校の連携についても、ご意見をいただけた。自分は20数年間、中学校のスクールカウンセラーをしている。小学校に上がる時に、子どもにとっては環境条件、状態が変わるということを経験する。中学校になる時には、もう少し大きな飛躍がある。飛躍をする場面で、心理学では越境という言葉を使うが、越境することがどうしても苦手、越境することができないで、足踏みをすることがある。越境できないことから、不登校になってしまう子どもがじわっと増えている。子ども達をどうやって越境させていったらよいのかと考え、普段から支援している。別府市の子どもが、順調に越境し、小学校に就学してほしいと思い、会議に参加した。

委員：別府市の認定こども園について、自園は大分県から打診を受け、県の方と話をしながらこれまでやってきた。別府市において、認定こども園が広がらないのは、自分達も別府市と話をしながら進めてこなかったからという感もあるが、保育部門との話をしてこなかったことが一番の問題ではないかと感じた。認定

こども園のよさをしっかり知らせないといけない。自園は毎年定員を増やしているが、満杯である。それでも、入園したいという保護者の見学があり、「他にも幼稚園や保育所がある」と知らせている。別府市の子どもが学校を選ぶ時、どこに行ったらいいのかわからないで来ている方が多い。このような教育の場があると知らせる場があったらよい。

委員：会議の中で、行政窓口の一本化、組織の一体化を述べさせてもらったが、仕組みを整えていくことが、今後、保育の質や量の充実に向けて大事であるのではないかと感じた。

委員長：このような意見は、今後の取組の参考にしていきたい。

(2) 教育長報告について

○15時45分から、教育長に報告書提出を行いますので、出席願います。